

令和6年度 嶺北森林管理署の重点施策

～ 地域の林業成長産業化に向けた取組 ～

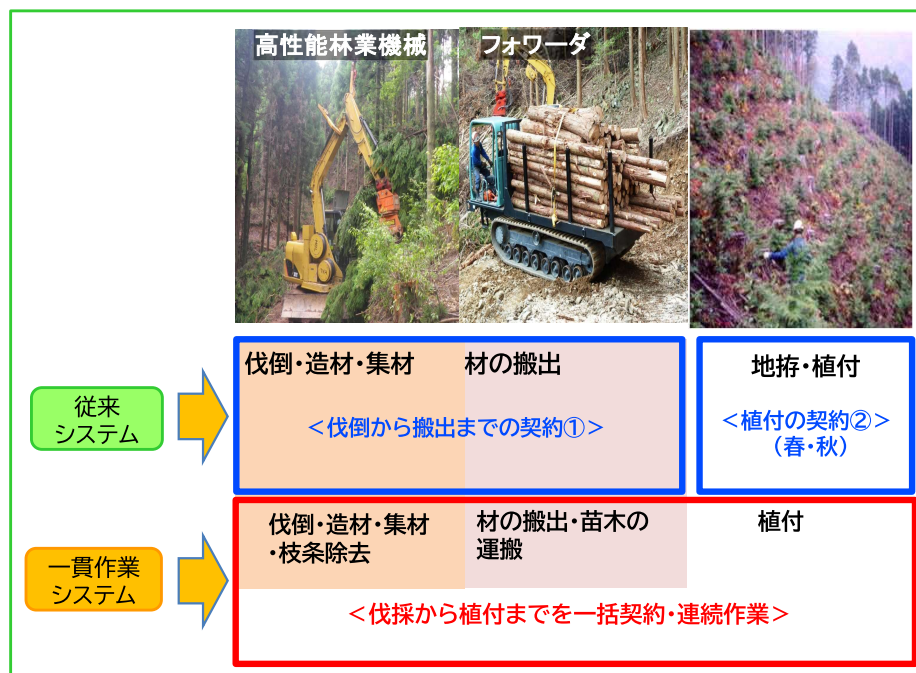
令和6年4月

嶺北森林管理署

1 伐採・造林の一貫作業によるコスト削減と 複数年契約による安定した事業量の確保・事業体の育成

- 伐採・搬出から植栽の作業を一括発注する「一貫作業」を2地区、香美市(向山)、仁淀川町(長谷)で実施。伐採から造林事業のトータルコスト削減を推進。また、「伐って、植える」ことにより、確実に造成していく。
- 複数年契約を2地区、香美市(谷相山)土佐町(一ノ谷山)で実施。複数年に渡る安定した事業量を確保することにより、経営・雇用の安定や事業体の育成に取り組む。

■一貫作業システムと従来システム



■令和6年度 一貫作業実施地区(誘導伐+植栽)

所在地	国有林名	面積(ha)	備考
香美市	向山	5.89	一括発注
仁淀川町	長谷	6.92	一括発注

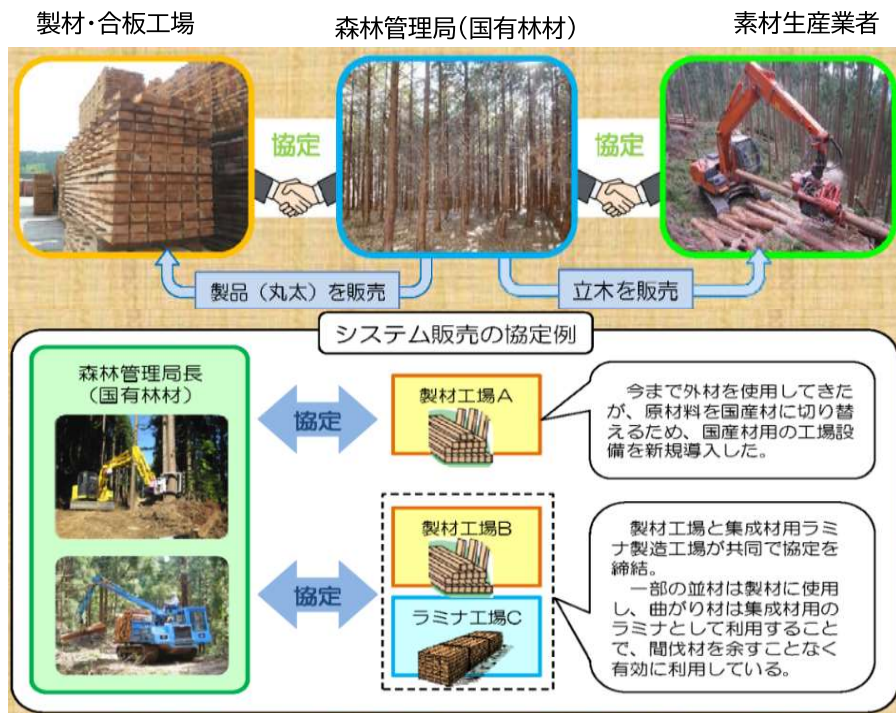
■令和6年度の複数年契約実施地区

事業年度	所在地	国有林名	面積(ha)	予定数量(m3)
R5~6年度(2ヶ年)	香美市	谷相山	48	8,000
R6~8年度(3ヶ年)	土佐町	一ノ谷山	111	9,000

2 国有林材の安定供給

- 民有林と国有林の連携、立木販売の強化等により、国有林材38.1千 m^3 (製品(丸太)換算)を安定供給。
- 民国連携した3つの森林共同施業団地からの安定供給。(住友林業、香美森林組合、高知県)

■ 国有林材の安定供給システム販売の仕組み



■ 嶺北署管内における素材生産の様子



■ 嶺北署の国有林材の供給量

	(千 m^3)					
	H31	R2	R3	R4	R5	R6
供給総量	27.6	18.8	19.1	18.1	19.8	38.1
製品販売	17.5	18.8	19.1	18.1	16.1	27.5
システム販売	16.2	18.0	17.8	17.3	10.2	17.1
立木販売 (製品換算70%)	14.4 (10.1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5.3 (3.7)	15.2 (10.6)

※H31～R5年度は実績値。立木販売の製品(丸太)換算率は70%

■ 3つの森林共同施業団地の概要

協定名称	締結日	市町村等	協定面積 (ha)	協定面積		備考
				国有林 (ha)	民有林 (ha)	
いの町本川地域(戸中、葛原)の森林整備の推進に関する協定	H21. 8. 6 H26. 3. 20 H31. 3. 28 R 6. 3. 29	住友林業(株) 新居浜山林事業所	305	220	85	戸中団地
			430	271	158	葛原団地
南国市中ノ川地域の森林整備推進に関する協定	H23. 8. 4 H27. 3. 19 R 2. 3. 6	香美森林組合	1,627	533	1,095	
大豊町立川地区の森林整備の推進に関する協定	H27. 9. 4 H31. 3. 29 R 6. 3. 29	高知県林業振興・環境部	603	290	313	

※端数処理により面積は合致しない。

3 シカ・ノウサギ等による被害対策の推進

○ 民国が一体となって被害対策を推進。平成28年1月に中江産業(株)と締結した「ニホンジカによる森林被害防止協定」により、いの町内の社有林・国有林へ「くくりわな」を設置し、一体となってシカ捕獲を実施。また、職員による囲いわな・くくりわな等でのニホンジカの捕獲を実施。近年ではノウサギによる被害も増加しており、植栽箇所防護ネットの設置や単木保護を実施。

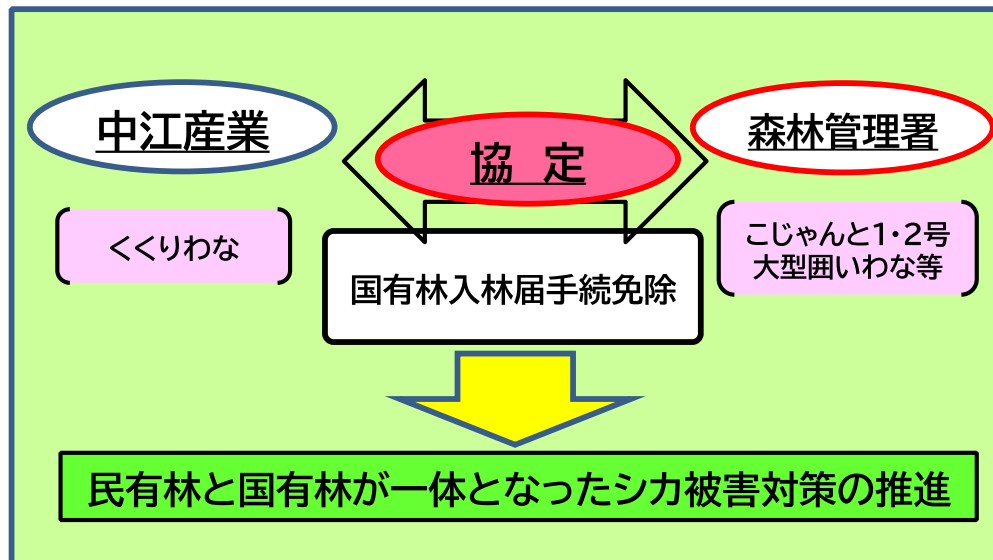
■ 協定によるニホンジカの捕獲頭数の推移 (単位:頭)

H30年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
91	70	44	117	99	133

■ 職員によるニホンジカの捕獲頭数の推移 (単位:頭)

H30年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
45	104	64	77	75	90

■ シカ被害対策連携協定



■ 獣害対策の例



(防護ネット)



(単木保護)



(大型囲いわな)



(こじゃんと2号)

4 地域の安全・安心を守る山地防災力の強化

- 近年の大雨や短時間強雨の増加により、大規模、多発化している自然災害から地域の安全・安心を確保するため、本年度は17箇所で行山事業を実施。(R5年度17箇所15.1億円 → R6年度17箇所15.1億円)
 また、令和3年度より着手している吉野川上流地区民有林直轄治山事業においては、高知・徳島両県を跨ぐ広範囲の山腹崩壊等の復旧に継続的に取り組み、地域の方々が安心して暮らせるよう早期復旧に取り組む。

■ 平成30年7月豪雨による被災箇所



大豊町立川



三好市根津木

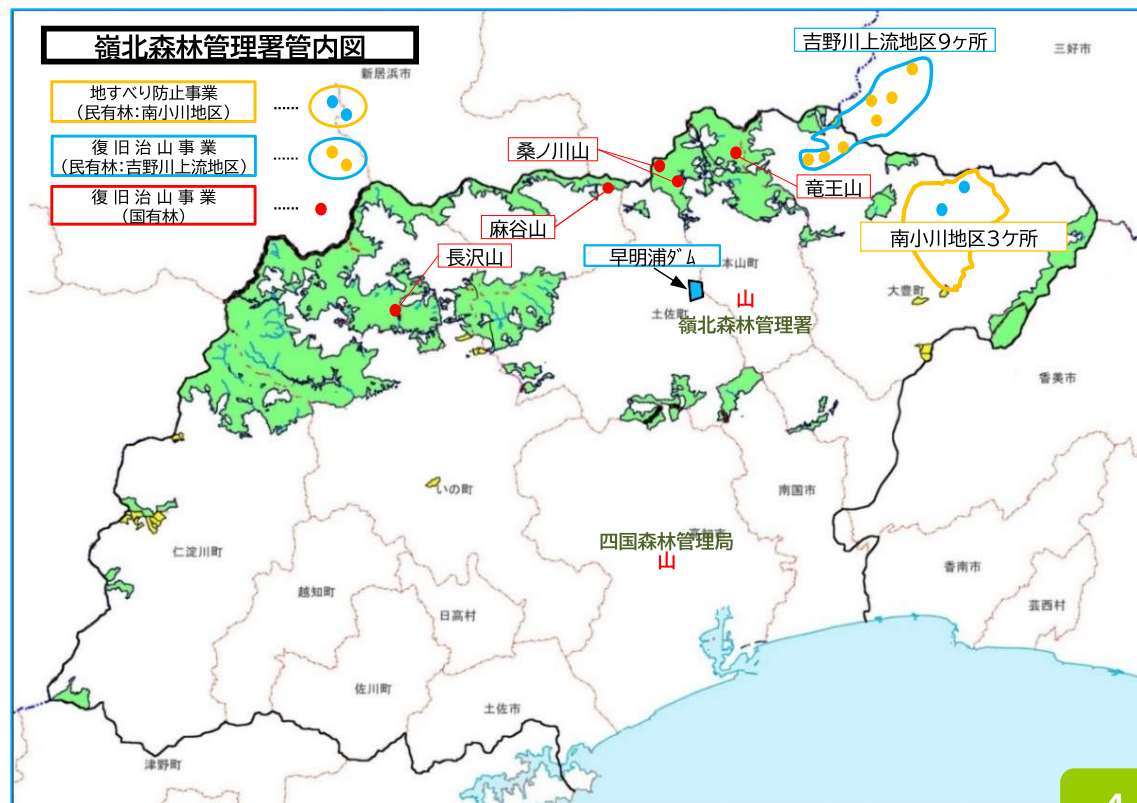


復旧状況(崩壊下流部対策工)



復旧状況(山腹工施工状況)

■ 令和6年度 嶺北署管内の復旧治山事業・地すべり防止事業の実施予定地区



5 森林環境教育等の実施

- 嶺北地域唯一の高校である県立嶺北高校の活性化のため、毎年、生徒に森林・林業に関する講義と現地見学等の森林環境教育を実施し、活動を支援。
岡豊高校では「総合的な探究の時間」にて、高知県の産業成長戦略のひとつである「林業分野」について、授業の中で学習することとしているため、継続して講義要請に応えていく。
- 平成29年11月に四国森林管理局と高知県は、林業・木材産業を担う人材育成に向けた連携及び協力に関する協定を締結。嶺北森林管理署としては、高知県立林業大学校の実習について講師の派遣やフィールドの提供を行う。

■ 森林環境教育



嶺北高校講義の様子



嶺北高校現地講義の様子



岡豊高校講義の様子

6 CLT庁舎を活用した木材利用の促進

- 国の庁舎として、初めて本格的にCLTパネル工法を採用して建築された庁舎を活用して、公共建築物をはじめとする一般建築物への木材利用の促進に努める。
また、視察や学校教育等での見学会の受け入れを通じて、森林の大切さや木材の効果についてPRする。

■ 嶺北森林管理署CLT庁舎



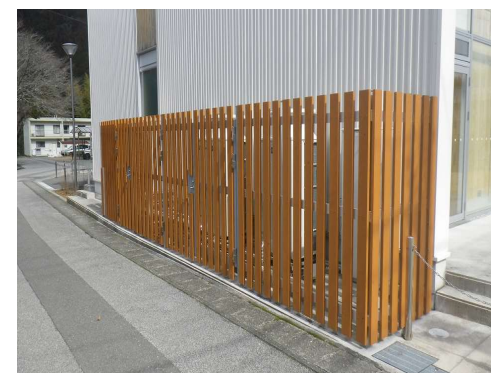
■ 木材の使用状況



CLTの使用状況(2階)



CLT内壁と床サクラ材(2階)



広葉樹のCNFシーラー(セルローズナノファイバー)をコーティングしたフェンス

7 嶺北地域の魅力ある「国有林」をPR

○ 植物学者・牧野富太郎博士が白髪山国有林を歩いた足跡をこのたび四国森林管理局にてパンフレットにとりまとめられたので、嶺北地域の植物多彩な魅力ある国有林の宣伝活動を行う。

牧野富太郎が歩いた「国有林」



植物学者・牧野富太郎博士。博士が7歳の昭和9年8月に、高知営林局^{※1}に招かれ、魚梁瀬(現・高知県馬路村)や白髪山(現・高知県本山町)において、営林局職員に対し、植物の採集指導を行いました。
「高知林友」^{※2}に、牧野博士と行動を共にした当時の職員が記録を残していました。

牧野博士の行程

- 昭和9年8月
- 5日 高知発、田野貯木場を経由し、魚梁瀬営林署管内の西川事業所泊
 - 6日 千本山保護林で指導調査、魚梁瀬営林署管内の石仙泊
 - 7日 午前、石仙で採集・鑑定の上、午後高知へ
 - 8日 高知から本山を経由し、本山営林署管内の白髪山作業所泊
 - 9日 白髪山国有林で指導調査し、本山町泊
 - 10日 帰全山の植物調査を行い、高知に戻る



「高知林友」が伝える牧野博士の様子

自らを「植物の精」と呼んだ博士像そのままに、植物の採集や指導にあたり、植物を愛する様子が克明に書かれており、職員が牧野博士から感銘を受けた様子が伝わってきます。



高知林友 第172号(昭和9年10月)

殊に先生の植物に対する愛着心から、研究の熱心なる真に学者としての態度に感嘆(絶はざる)であったのであります。私には多くの植物を取った以上に、植物に中するといふ先生の真摯な研究態度を目の当たりにして我々の研究の足らざるを知るとともに或一つの大きな教訓を受けた次第であります。

それら高知眼で見たのは先生の植物に対する愛護の態度で、余は一本一草一木一葉一花と期も無く無意味に採集してはなりません。鋭く研究の爲め採集であるこの御身を前に持たれている点があり、何れに採集されるという御心を常に持たれていることであります。

高知林友 第172号『牧野博士にお礼に』より

「道は植物界の春斗だ」との感念にみんなの顔には緊張の色が透ました。草の世界大権威者に集し、其の奥に驚嘆しました。そして其の学者の如何なるかを我々の眼に映し、心で受け付けられ、植物研究以外に何かを我々に与えて下さったことを感銘した。

高知林友 第172号『森林主事講習生の実習日記 第二』より

林業遺産「大正・昭和初期の林業関係写真」

四国森林管理局には、大正～昭和初期の林業関係の写真帳が保存されており、当時の林業活動の様子をうかがい知ることができます。牧野博士が訪れた際に撮られた写真ではありません(博士訪問の10～20年程度前の様子と推定)。が、牧野博士が訪れたとされる場所の写真も残されています。本誌では、この林業遺産の写真とともに、博士の行程をご紹介します。



千本山保護林(現・高知県馬路村) 白髪山保護林(現・高知県本山町)

※1 高知営林局：現在の四国森林管理局の前身となる組織で、四国全体の国有林を管理・経営していました。
※2 「高知林友」：大正3年7月に戦前の最高機関による高知林友会が発足しました。毎月1回「高知林友」誌を発行し、職員相互の懇話会、紀行記録、情報誌を採るとともに、林業関係者の労働問題の解決をもつて出版したものが存在します。
【参考文献】高知新聞社(1977)、「高知林友」第111号(昭和6年9月号)、第112号(昭和6年10月号)、旧字体は新字体に、旧版名は現代版名義にしてあります。

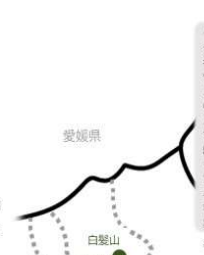
牧野富太郎が歩いた「国有林」～白髪山編～

牧野富太郎博士は昭和9年8月8日から10日まで、本山営林署^{※1}管内で植物の採取指導を行い、「白髪山保護林」などを訪問しました。「高知林友」には、汗見川畔を森林鉄道のガソリン機関車で登り、本山営林署の事業所に宿泊、翌日には白髪山保護林を経て、白髪山に登った様子が記録されています。

白髪山保護林



白髪山保護林は、江戸時代までの天然ヒノキの利用の歴史を経てなお残る美林として、大正4年に指定された。保護林制度に基づく学術参考保護林に指定されました。



八月八日、本山に着いたのが午前十時、昼食後汗見川畔をガソリン機関車で登り冬ノ瀬下車途中採集しつつ白髪事業所に午後五時過ぎ着いた。翌九日白髪頂上へと早朝出発し、途中スダケの区別特徴を教わり、時々先生独特の生物学的な生観を拝聴し、常にほつきい意気をも打たれてします。今日も随分難行難なで少くも正午までには頂上まで登ってしまわぬに、保護林の中腹あたりで急登となる。やむなく急登力を出して頂上を極め北面を下り冬ノ瀬に着いたのが午後五時、それは強雨の中を下って午後七時過ぎ本山町に着き、今日の旅行の最後の一夜を明かすこととなりました。

高知林友 第172号『牧野博士にお礼に』より

白髪山作業所



当時の営林署の山仕事の拠点。相当数の作業員を宿泊、共同生活させながら、伐採や遊林作業が行われていたようです。上段は事務所及び所員宿舎、下段は夫入り小屋と物品供給店だったそうです。

汗見土場



白髪山作業所との間には軌道が通じ、そこから運ばれてきた丸太や木皮を収容していました。丸太はこの下流から汗見川を流下し丸太を1本ずつ、途中からは現に組み直し、徳富市に搬出さらに販市場に出荷されていました。

当時の山仕事の様子



当時、チェーンソーは無く、人力での伐採が行われていました。写真はケヤキ割(三寸細伐り)という方法で採集している様子です。(現・高知県本山町 龍王山国有林)

伐採すると、枝や根張りなどを取り除き、「袖角」として搬出しました。(現・高知県本山町 龍王山国有林)

燃料が薪炭だった時代です。薪木や枝などは、山で木炭に加工され、出荷されました。(現・高知県津野町 大古山国有林)

※1 本山営林署：現在の徳島森林管理局の前身。
※2 本誌の写真は、四国森林管理局が所蔵する林業遺産「大正・昭和初期の林業関係写真」にあるものです。当時の林業活動の様子をうかがい知ることができます。牧野博士が訪れた際に撮られた写真ではありません(博士訪問の10～20年程度前の様子と推定)。が、牧野博士が訪れたとされる場所の写真も残されています。本誌では、この林業遺産の写真とともに、博士の行程をご紹介します。
【参考文献】高知新聞社(1977)、「高知林友」第111号(昭和6年9月号)、第112号(昭和6年10月号)、旧字体は新字体に、旧版名は現代版名義にしてあります。

